

日本東亞同文書院編

(第三十四冊)

中國省別全志

綫裝書局

第三十四冊

第十七卷 山西省（二）大正九年 一九二〇年 東亞同文會……………一

第十七卷

山西省

(二)

大正九年

一九二〇年

東亞同文會

第六編 山西の鑛産

第一章 概説

第一 地質

山西省は土地一般に高臺をなし、海拔八千尺より一萬四千尺に達し、平均三千尺の高度を有す、而して其地質は太原府平野を通過する北緯三十八度に由り南北に區分し得べく、此の線以南を更に二部に分つ時は。

三十八度以南

一 全地域に亘る含炭質原野
二 省の西南隅地區にして、汾河に洗はるる炭層なき地方

となり該線以北を分つ時は

三十八度以北

一 省の東北にある斷層にして、西南より東北に亘る山脈を形成する地方
二 西部に於ける黒糸羅紀系に屬する高原地方

其他

省の東部五臺山地方に於て片麻岩、砂岩の綠色泥化片岩に多量の角閃石及蛇紋岩を含める特殊なる地層あり。

而して省内の古代層は太原府南方より始まり汾河の河岸に沿ひ其左岸に於て西南に擴がれり、此の古代層は實に山西省の西部をなすものにして、狭き幅員を有する片麻岩及花崗岩層より成り、其の比高七千乃至八千呎に達す。

汾河及黃河の間に介在する地方に於ても同様古代層の存在するを見る、此等地層は侵蝕に依る崩壞に對し、比較的堅牢にして周圍の地方より隆起し、太原府の西部に當り海拔九千四百四十呎に達せるものあり。

省の西南部に於ては(一)石灰岩層(二)含炭砂岩層(三)砂岩層等三種の地層あり、而して是等各層の間には志留利亞紀層、泥盆紀層及石炭紀層より成る地隙部をも有する處あり、然るに東南部大炭田地方に於ては砂岩層は水の浸蝕に依り漸次消滅しつゝあり。

更に北部の炭層を見るに、太原以北に於ても全く南部地方のものと連絡し、此方寧武縣に及ぶと雖も、朔平地方に到れば全く炭層の存在を見ず、從て北部に於ては寧武朔平の中間及五臺山を以て炭田有無の境となすべし、東北部の山脈地方は西南より東北に走る山脈の集團にして、主として古代の結晶片岩より成り

北東北部は所謂大同の平野にして、炭田に富み炭質亦良好なり。

更に山西の地質に關する參考として卓氏の調査（商務印書館發行
七年五月鑛業雜誌）の大要を左に記さむ

山西の面積五萬五千平方哩、地勢甚だ一樣ならず、東南は山脈聳起して燕豫平原の上に突出し、其西は黃河の峽谷之が境界をなし、北は漸く蒙古草野を現して游牧の地をなせり、全省は山脈横亘し、概ね東北より西南に走れり、其間稀に灌木ありと雖も、森林鮮少荒蕪不毛の地をなす、然れ共山脈の間には肥沃の原野ありて耕作に適せり、其大なるものは太原府の高原とす、南北約八十哩東西に山脈夾峙し相距ること約二十五哩、省城を距ること東北三十哩の地は、山谷畫の如く、兩壁石岩垂立し、汾水是より發源して全原の灌漑をなす、山西の地質に就き其特質を略記せば左の如し、

系名	年代	主要岩石
五臺系	Triambrian 紀	片麻岩 片岩 硅岩 大理岩
兗州系	Cambrian 紀	石灰岩 頁岩

冀州系

Ordovician Period 紀 石灰岩

岩層系

石炭紀

砂岩 燧石質石灰岩 岩砂及頁岩 黃棕色砂岩

黃土

第四紀

(一) 五臺系 Richtlofen 及 Willis 兩氏は山西の Triassic 層系を五臺系と名づ

けたり、此系に屬する岩石には、片麻岩、綠色片岩、珪岩、大理石等あり、花崗岩は其中に噴入す、此系の岩層は多く省の東北に見ゆ、獲鹿縣の南井陘縣の北を主とす、高度一萬呎の五臺山は實に此系の模標にして、是即五臺系の稱ある所以なり、五臺山は太原府の北百哩に在り、山勢東北より西南に向つて走れり、其の他霍山、風雲山等あり、其山勢及地層等五臺山に同じ、唯五臺山の上に於ては間々 Cambrian, Ordovician 兩紀層の岩層に覆はるゝを見ることあり。

(二) 兗州系 此系の岩層は寒武利亞紀に屬し、リヒトホルヘン氏始めて之を山東に發見せり、故に支那東北に共有なることを知り得べし、其主要なる岩山は石灰岩なり、砂粒多くして粘狀を呈せり、中間に紅色頁岩あり、此岩層は山西各地に擴り獲鹿縣の南井陘縣の北に著し。

(三)冀州系 兗州系の上表を冀州系となす、ウィリス氏の命名する處にして、其岩石は Ordovician 紀の青色灰岩にして粒狀を呈せず、質頗る純なり、リー氏は此岩石を石炭紀に屬すと稱せり、其上層を砂岩及頁岩となす、其内には炭層を含めり是亦支那北部の石灰岩に屬せり、故に支那北部には兗州、冀州兩系岩層の存在すること最も普通なり、山西の山脈は多く之に由りて構成せられ、石灰岩の峻壁は各地に散見し、高さは數百呎に達するものあり。

(四)炭層系 ウ氏の言に據れば、山西の炭層は石炭系に屬し、米國產炭の最豐富區と同じと、是冀州系の上層にあるものなれ共炭層は之と整合せず、此層系を構成する岩石は、(一)頁岩は即瀝青の石灰岩中の燧石に挟れ耐火質粘土にして彩色砂岩なり、此等岩層中には多く炭鐵を含有す、(二)紅岩及頁岩は粘土と相互に錯迭す云々と。

(五)黃土 山西は概ね此種土壤に係り、其色棕黃にして、土質疎鬆なり、故に溪流の經る處多く峻壁をなし、高さは數百呎に達するものあり、リヒトホーヘン氏曰く、此種の黃土は中部亞細亞地方より吹き來る細砂微塵の堆積して成るものに

して、粘土、砂礫、炭化物を含有し、尙鹽分質のものを伴ふ、其色黄なるは鐵分を含有するを以てなりと、其組織より見れば、地味肥沃にして耕作に適するを知るべし、黄土の上に間々火山流出の石塊あり、即雪花岩と云ふ、井陘の西南に雪花山あり故に之を名付く。

而して以上舉ぐる所の各系は皆リ、ウ兩氏の説に基けるものにして誤なきを信ず、若し某處の岩石が冀州系以上の岩層に屬せずと爲さば、必ず其下に炭層なきを知るべきなりと。

第二 鑛產地及種類

山西の鑛産に富めること實に支那全土に冠たり、全省の面積八萬二千方哩（は九萬五千方哩と云ふ）、西北部の一隅を除き全土鑛物を埋藏せざるなしと云ふも敢て過言にあらず、其種類亦多く就中石炭は世界有數の炭量を有し、鐵之に次ぐ、今左に其種類及産地を示さむ。

鑛物の種類及産地

榆次縣—（火燒嘴）—（南米溝）

鳳台縣—（孫村）

平定州—（鐵爐溝）—（燕子溝）—（賈地溝）—

石炭

(漢河溝)——(段家碑)——(莊々溝)——(老仙聖溝)——(後山溝) 壽陽縣——(榮家溝)——(段王鎮)——(大底)——
 (莊子溝) 孟縣——(馬家地)——(清城鎮) 懷仁縣——(千々峪)——(黑溝) 鄉寧縣——(客南上)——(北
 路坡)——(柏辿客) 趙城縣——(張家山)——(內溝里) 孝義縣——(前寺溝)——(後寺溝)——(南溝客)——(渠
 林溝)——(公家原)——(蕎麥溝)——(前王溝)——(後王溝)——(黑坡溝)——(應牛溝)——(中凹)——(莊王溝)——(上坡)——
 (亂崖溝) 隰州——(上莊)——(南溝里)——(南良砂)——(後水頭) 襄垣縣——(固王)——(武陽) 潞
 城縣——(安柱)——(衛村)——(巖神嶺) 靜樂縣 翼城縣 岳陽縣 臨汾縣 洪洞
 縣 浮山縣 太平縣 靈石縣 陽城縣 大寧縣 臨縣 廣寧縣
 神池縣 五台縣 太原縣 長安縣

鐵鑛

鳳台縣 (太陽鎮) 平定州 (楊樹溝)——(江家莊)——(梨林頭) 孟縣 (南流)——(清城鎮)——(盧河
 溝) 樂平縣 (東溝) 鄉寧縣 (羅家河)——(北坡底) 懷仁縣 (五臺山) 趙城縣 (百佃兒
 里)——(內溝里) 孝義縣 (河底)——(忠四)——(沙岸) 隰州 (上莊)——(盤柳凹) 長治縣 (蔭城鎮)
 屯留縣 (小寒山) 太原縣 榆次縣 臨汾縣 曲沃縣 翼城縣 岳陽縣
 汾西縣 洪洞縣 吉州 安邑縣 陽城縣 絳縣 武鄉縣 沁源縣
 靈石縣 寧鄉縣 保德州 陽城縣 (微子鎮)

銀

鑛

聞喜縣 (瓦渣溝) (臨崖溝) (篋子溝) 五台縣 (五臺山) 隰州 (外溝) 安邑縣
平陸縣

銅

鑛

垣曲縣 (同善鎮) (銅礦谷) (銅瓦溝) (三叉河) (柳莊隘) (銅峪水崖溝) (南溝) (西洋海) (銅
峪峯) (北峪) 聞喜縣 (磽确溝) (上衛坡) (橫嶺) (瓦渣嶺) 絳縣 (桑池村) 孟縣 (均才)
懷仁縣 (銅銅凹) (秋八溝) (小峒溝) 鄉寧縣 (龍王廟) 平陸縣 曲沃縣長安縣
大同府 定襄縣

砂

金

大寧縣 陽城縣 聞喜縣 孟縣

金

鑛

垣曲縣 (澤山西) (金牛寺) 代州 (蛇頭區) (代不動山) (馬牙石崖底)

鉛

鑛

平陸縣 (錐子山) 夏縣 (艾葉溝) (桃溝) (洞溝) 隰州 (下合式) (廣靈塢) 垣曲縣

錫

鑛

安邑縣 平鹿縣 陽城縣 沁源縣

硝

石

永寧縣 (有硝池)

明

礬

壽陽縣 吉州 垣曲縣 解州

鉀

鑛

澤州府

綠

礬

大同府 平定府 解州 (有膽礬) 垣曲縣 (同上)

石綿 黎城縣 壺關縣

石膏 平陸縣(石膏窰) 永寧州 介休縣

瑪瑙 鄉寧縣(嶺那上村) 大同府

水晶 永寧州 澤州府

琥珀 潞安府

硫黃 陽曲縣(王封山之大片洞台圪洞)——(王封山之石層溝礮水溝) 孝義縣(莊王溝)——(上陽坡)——(亂岸溝) 陽州

煤油 潞安府 陵川縣 平定州 平陽府

解玉沙 孟縣(馬圈村)

採鑛地一覽表 (支那政府調査民
國元年八月現在)

州縣	所在地	鑛質	開否	官業別	經營者	礦區
陽曲縣	王封山之大片洞臺圪洞	硫黃	開掘	民業	劉篤敬	1
同	王封山之石層溝礮水溝	同	同	同	同	1
同	同善領	銅鑛	同	同	楊敵田	九三六

同	同	同	同	同	開喜縣	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
橫嶺	上衛坡	磧礪溝	筓子溝	臨崖溝	瓦渣溝	北峪	銅峪客峒	西洋海	南溝	銅礦峪	銅峪水崖溝	柳莊隘	三叉河	銅瓦溝	銅礦谷		
同	同	銅鐵	同	同	銀鐵	同	同	同	同	同	同	同	同	同	銅鐵		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	開掘		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	民業		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	楊鐵田 涑川公司		

[illegible]

長治縣	蔭城鎮	鐵礦	開掘			
襄垣縣	固王山	石炭	同			
同	武陽	同	同			
潞城縣	微子鎮	鐵礦	未開			
同	安柱	石炭	開掘			
同	衛村	同	同			
屯留縣	巖神嶺	同	同			

備考 本表中鐵區欄に於ける數字にして單位を示さざるものは鐵區數を示す、一鐵區は十五畝(九萬方尺)とす

第三 福公司与探鑛條約

獨逸の地質學者リヒトホルヘン氏が一八六八年より數回に亙り親しく支那内地を踏査し、山西省の鑛産に就き未曾有の報告をなすや、曩に之を耳にし未だ眞價を知らざりし列強は、爭ふて之が特權の獲得に意を用ゐたり、然るに名を求めずして其の實を得るを目的とせる英國は福公司(北京シンヂケート或は英伊シンヂケートと稱す、英皇の孫女婿、ロートン侯爵を總裁に戴ける會社)をして一八九八年支那政府との間に探鑛條約を締結せしめたり而して其名義は山西商務